



富山県中小企業の海外ビジネス実現に向けて

ジェトロ富山 所長 大久保 敦

本部途上国貿易開発部より2011年11月にジェトロ富山に異動になりました大久保です。今後も富山県内中小企業の海外ビジネス展開が実現できるよう、創意工夫を重ねてサポートしていく所存です。

私が当地に着任して目の当たりにしたのは、富山には高岡銅器や医薬品など1600年代以降の伝統技術を起源とした様々なものづくりが、黒部ダムからの安価な電力供給を受けて発展し、今日では日本海沿岸を代表する多様な産業が集積していることです。そして今日、国内市場がじり貧となるなか、生き残りをかけて海外に打って出る企業が中小企業に至るまで増加している点です。

昨年インドネシアでの販路開拓に向けて生産拠点を設置した富山県金型協同組合の事例は、日本各地で生じている中小企業におけるものづくりの危機を象徴する事例として、貿易投資振興機関であるジェトロ内でも動揺を与えています。

赴任して3カ月余りではありますが、富山県内企業向けの事業を通じて、企業や業界で温度差はあれ、海外ビジネス展開を通じて生き残りを図る動きが以下のとおり顕著となっています。

(1) 機械・金属部品は、円高と海外市場向け製品出荷の拡大により国内納入先のコスト削減要求に苦しむ中小企業が多く、新たに海外販路を開拓する企業や、海外での販路開拓に対応するための生産拠点を現地に設置することを余儀なくされている事例が増えています。しかしながら海外生産拠点の設置は中小企業にとっては多大なリスクとなっており、当事務所には様々な相談が寄せられています。

(2) 医薬品業界では、富山県薬業連合会で組織する視察商談ミッションをこれまでスイス、イタリア、ベトナム、タイに派遣。海外メーカーとの委受託、製品共同開発などを模索する事例を積み重ねてきており、こうした動きが他の企業にも広がる兆しがでてきています。

(3) 富山県内の伝統産品では、高岡銅器業界を中心に先進デザインを取り入れた高級インテリア

・生活用品が次々に誕生しています。高岡銅器メーカーのひとつである「能作」によるEU市場での製品輸出の成功を受け、同企業に続こうとする企業がでてきています。この結果、2012年1月にフランスで開催された世界最大のインテリア見本市（メゾン・エ・オブジェ）には、高岡市から3社1組合が出展（昨年1社のみ）、高岡市長も現地バイヤーへのトップセールスを行いました。また、伝統産品関連企業も海外バイヤーとの取引を実現するために貿易実務の習得に力を入れ始めています。

以上のような現状を踏まえてジェトロ富山としては、2012年度、県内自治体や関係機関のご支援をいただきながら、以下の取り組みを重点に富山県内企業の海外ビジネスを支援していきたいと考えています。

(1) 海外バイヤー招へい商談会

2012年9月27日～29日に開催される「富山県ものづくり総合見本市2012」の機会を捉え、機械・同部品等を調達する海外バイヤーを招へいして商談会を開催します。

(2) アジアにおける海外貸し工場団地調査・情報提供

(3) 医薬品業界など県内企業による海外ミッション派遣への支援

(4) 県内伝統デザイン産品の海外販路開拓支援

バイヤー招聘による商談会開催や海外見本市出展支援による商談機会の提供を行うと同時に、セミナー開催や貿易相談による輸出能力向上を通じて、高岡をはじめとする県内伝統産品の海外展開販路を支援していきます。

ジェトロ富山ではこのほか、富山県中小企業のニーズに応じたセミナー開催や貿易投資相談に注力したいと考えています。また新規事業として一次産品を含めた農林水産品の輸出支援を行うために2011年1月から相談窓口を開設。今後は中長期的な輸出支援を行うための有望産品発掘やニーズ調査に注力したいと考えています。